

# 最優秀賞

「微睡みのホロピリ湖」 上田 達哉（当麻町）



第22回明日萌の里  
フォトコンテスト入賞作品

## 審査員講評（抜粋）

明日萌の里フォトコンテストは、今年で22回目を向かえました。まずもって受賞された皆様、大変おめでとうございます。

今年は世界的にも、コロナ禍に振り回された年となってしまいました。ここ沼田町でも、最大のイベントであります「沼田町夜高あんどん祭り」の中止は、町民の方々はもとより、毎年楽しみにしているファンの方にとっても大きなショックとなったことに違いありません。多くの自治体などでは各種フォトコンテストの中止を発表する中、明日萌の里フォトコンテストは実施するとの連絡が入ったときには、一瞬戸惑いました。果たしてこの状況の中で、どれくらいの作品が集まるのか心配したからです。しかし、その心配は全くと言って良いくらい思い過ごしに終わりました。というのも、例年よりはるかに多い作品がエントリーされたからです。

このことは例年話しておりますが、写真に対する関心の高さの表れだと思っております。しかも、審査終了後に受賞者の居住地を見ますと、当麻町、新ひだか町、札幌市、東川町、美瑛町などと町外の方が多く受賞されており、驚きと同時に大変嬉しく思いました。これだけ町外の方が沼田町に来町されているということは、フォトコンテストの本来の目的をある程度は果たしているのではと思えるからです。誠にありがとうございます。

受賞作品を振り返ってみますと、栄えある最優秀賞を受賞された当麻町の上田達哉さんの作品「微睡みのホロピリ湖」は、その上品な色合いがかなり目をひいた作品です。コンテストにはよく必要といわれている派手さは決してありませんが、訴えるモチーフ、テーマがしっかりしていれば、このように見事に最優秀賞に選ばれるという見本のような作品になっています。観光写真としても、また作品としてもかなり格調高い仕上がりになっています。

優秀賞の神保吉数さんの「ホロピリ湖の銀河」も、同じ湖の作品でした。しかし、モチーフが全く違った作品で、もちろん時間帯も違いますが、同じ場所でも表現方法は無限にあるということがわかると思います。

同じく優秀賞の能登喬也さんの「色づく」は、スケール感よりも、自分の心の内面を表現していると思います。大きな風景だけではなく、このような足下の風景、目の前の小さなものを見る目を養うことも大事な事だと思います。

JR部門での優秀賞、小山内義紀さんの作品はドローンで撮影した作品でした。今後はこのようなドローンで撮影する機会が増えてくると思いますが、くれぐれも事故にはご注意頂きたいと思います。

最後になりますが、22回という長きの開催を重ねられている主催者と関係者の皆様のご努力に敬意を表しますと共に、改めて受賞者の皆様に心よりお祝い申し上げます。

2020年10月24日

「明日萌の里フォトコンテスト」審査員代表  
写真家 菊地 晴夫

# 優秀賞



「ホロピリ湖の銀河」神保 吉数（新ひだか町）



「色づく」能登 喬也（札幌市）

# 入選



「朝がまた来る」石田 めくみ（北広島市）



「月夜の沼田ダム」海野 孝（滝川市）



「大雪山遠望」野 佳昭（沼田町）



「明日萌の里の朝」平澤 勇斗（美瑛町）



「おいしいお米出来ました」山守 陽一（旭川市）

# JR 部門

## 優秀賞



「真布の秋」小山内 義紀（東川町）

## 入選



「スキの中」金子 道雄（苫小牧市）



「STATION (乗客)」龍至 伸一（深川市）

## ◆奨励賞◆

「真夏の雪遊び1」  
「気高く舞う」  
「木立」  
「生命の四重奏」  
「流れゆく萌え夏」

今井 昌（札幌市）  
上田 達哉（当麻町）  
神保 吉数（新ひだか町）  
坪井 智洋（札幌市）  
原 聡彦（札幌市）

「色づく町」  
「次は明日萌」  
「残照」  
「華麗な光」  
「夏去りて」

岩城 侑平（旭川市）  
金子 道雄（苫小牧市）  
巽 勝義（美瑛市）  
野 佳昭（沼田町）  
桧枝 広美（網走市）

# あんどん写メ部門

## 優秀賞



「合戦を終えて」野 佳昭（沼田町）

## 入選



「揃い踏み」  
岩城 智則（沼田町）



「迷子にならないようにね！」  
木村 拓哉（沼田町）